

PRESS RELEASE

報道関係各位



公益財団法人東京都歴史文化財団
アーツカウンシル東京
株式会社ドリル

Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル13

「東京大壁画」本格始動にともない ロゴマーク・キービジュアルを公開

東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京が主催する“Tokyo Tokyo FESTIVALスペシャル13”のひとつであり、株式会社ドリルが企画制作を手がける「東京大壁画」は、本日、ロゴマーク及びキービジュアルを発表します。



ロゴマーク・キービジュアル



丸ビル・新丸ビル制作風景

「東京大壁画」は、“Tokyo Tokyo FESTIVALスペシャル13”の最後に発表された企画であり、2021年夏の東京・丸の内において、アーティスト横尾忠則さん、横尾美美さんを起用し、丸の内ビルディング（以下、丸ビル）・新丸の内ビルディング（以下、新丸ビル）の壁面を一对のキャンパスに見立て総面積7,000㎡以上の巨大壁画アート2作品を展示するものです。

企画のコンセプトとなるのは「宇宙 COSMO POWER」。宇宙生命の大きなうねり＝エネルギーを表現すべく、丸ビルの壁面（総面積3,371㎡）には“火 (ignis)”をテーマとした横尾美美さんの作品が、新丸ビルの壁面（総面積4,381㎡）には“水 (aqua)”をテーマとした横尾忠則さんの作品が展示されます。展示はお二人が手掛けた巨大な絵柄をそれぞれ100枚以上に分割して1枚あたり約3㎡のシート化を行い、そのシートを1枚ずつ丸ビル・新丸ビルのガラス壁面に貼り付けるかたちで行われます。5月20日段階で、全体の約半分までシートの貼り付けが進行。これから7月17日（土）までの約2ヶ月をかけて、全353シート（丸ビル113シート、新丸ビル240シート）の貼り付けを完了させます。

今回発表するロゴマークは、東京駅の正面に立つ丸ビル・新丸ビルの巨大なガラス・ウォールを象徴的かつダイナミックにデザインし、掲げられた“火 (ignis)”と“水 (aqua)”をテーマとした二つの作品から生じるCOSMO

POWERを表現しました。キービジュアルは二棟のビルをモチーフにしたロゴマークを中心に据え、掲出される作品の一部と共に構成し、巨大壁画アートのスケール感を表現しつつ、企画コンセプトに込められた、世界を強く鼓舞するメッセージを伝えます。

今回の作品について、横尾忠則さんからは「(今回の企画への参画が決定した時に) まず、この支持体とどう対峙するかに、しばらく時間がかかるだろうと思った。テーマである火と水は相対的なものとして、ここでは二つの要素を一つの要素として考えた。まず現場に立って身体的に実感してもらいたい。」、横尾美美さんからは「東京大壁画は、アートという別次元へと誘(いざな)う入口を父と私の作品で創りあげているように感じた。"ignis (炎)"の中には、隠し画のようにさまざまな動物や天使、食べ物、花など平和を象徴するようなものが描かれているので、探しながら楽しんで観て頂きスケールの大きさを体感いただけたら嬉しい。コロナ禍にあっては、焼き尽くす炎が全てを新しく生まれ変わらせ、炎の聖さ(清さ)、優しさで心と身体が癒され、炎の強さ、情熱で、光(希望)へと導かれるような世界が感受できるような作品に成れば。」とのコメントをお寄せいただきました。

「東京大壁画」の展示期間は2021年7月17日(土)から、9月5日(日)までの50日間、国内はもとより海外でも例のない世界最大級のパブリックアートの完成をご期待ください。

<展示される作品の詳細について>

① 作品のテーマ～“火 (ignis)”と“水 (aqua)”

丸ビル・新丸ビルの二つの巨大なガラス・ウォールに作品を展開するにあたり、テーマにおいても「相互関係にあり、二つの呼応し合えるような概念を」ということで、横尾忠則氏、横尾美美氏を交えてミーティングを進めるうち、「火と水」、しかも卑近な状況にとどまらない、宇宙的な元素概念として捉えることのできる、“火 (ignis)”と、“水 (aqua)”に絞り込まれました。火は水によって消火されるが、水もまた火によって気化するという相関関係にあります。また、火は揺れ続け、螺旋状に上昇する一方で、水は水平にとどまり、垂直に落下するという、運動形態も極めて異種の状態を示します。こうした二つの存在と運動は、宇宙はもちろん、人類、私たち一人一人が内包する運動であり、エネルギーでもあるという思想に立ち、人類から、宇宙までに通底する「コスモパワー COSMO POWER」＝「生命の循環運動」と捉えました。



横尾美美氏作品 (一部)

テーマ “火 (ignis)”



横尾忠則氏作品 (一部)

テーマ “水 (aqua)”

② 作品の表現形式～“部分と全体”

表現形式においても、「相互関係にあり、二つの呼応し合えるような概念」のもとに、作品制作ができないものかと考えました。テーマは、“火 (ignis)”と、“水 (aqua)”ですが、単にそれぞれが火や水を描くのではなく、モンタージュ、あるいはコラージュという手法を用い、作品の部分部分が、単純な火や水ではないものによって構成されています。「部分と全体」双方が意味を持って存在することで、細部においては異化異質でありながら、総体としては火や水の表現になるという構造です。原質(オリジン)と、多様性(バリエーション)の関係を表すことにもなります。これは、人類、地球、宇宙をつなぐ大きな様相でもあります。“火 (ignis)”は横尾美美氏、“水 (aqua)”は横尾忠則氏が制作いたします。

【参考資料】

■アーティストプロフィール



横尾忠則氏

1936年兵庫県生まれ。美術家。72年にニューヨーク近代美術館で個展。その後もパリ、ヴェネツィア、サンパウロ、など各国のビエンナーレに出品し、パリのカルティエ財団現代美術館など各国の美術館で個展を開催。15年高松宮殿下記念世界文化賞、令和2年度東京都名誉都民顕彰。7月17日より東京都現代美術館での大規模な個展が開催される。



横尾美美氏

画家。1994年「Tadanori & MimiYOKOO」展で展覧会デビュー。1995年個展開催から、東京を中心に、全国各地で開催。2000年 PLEATS PLEASE ISSEY MIYAKE MILLENNIUM、Spring Summer2000 を担当。最近では me ISSEY MIYAKE “MIMI YOKOO”の第一弾(2017年)から第三弾(2020年)までコラボレーションを展開。

■実施概要

イベント名：東京大壁画

実施期間：2021年7月17日（土）～2021年9月5日（日）

実施場所：丸ビル（東京都千代田区丸の内2丁目4-1）、新丸ビル（東京都千代田区丸の内1丁目5-1）

アクセス：JR東京駅丸の内南口より徒歩1分、東京メトロ丸の内線東京駅より直結

公式WEB：<http://www.tokyodaihekiga.jp>

主催：東京都

公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京



企画運営：株式会社ドリル

後援：三菱地所株式会社、三菱地所プロパティマネジメント株式会社（会場協力）

協力：株式会社アタマトテ、株式会社アマナ、株式会社アンテナ、株式会社Odds Design

※プログラム内容は変更になる可能性があります。

「Tokyo Tokyo FESTIVAL」とは

オリンピック・パラリンピックが開催される東京を文化の面から盛り上げるため、多彩な文化プログラムを展開し、芸術文化都市東京の魅力を伝える取組です。

「Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル13」とは

斬新で独創的な企画や、より多くの人々が参加できる企画を幅広く募り、Tokyo Tokyo FESTIVALの中核を彩る事業として、東京都及び公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京が実施するものです。国内外から応募のあった2,436件から選定した13の企画を、「Tokyo Tokyo FESTIVALスペシャル13」と総称し、展開しています。

公式WEBサイト：<https://ttf-koubo.jp/>